



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

学習内容の定着状況をていねいに確認し、できなかったところをできるようにする取組を！ ～みえスタディ・チェック、全国学調、学-Viva!!セットの活用～

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により通常の年とは異なる状況の中で教育活動が行われ、各学校の工夫により各学年の学習内容は年度内に終えることができました。一方、子どもたちの中には、授業の進度が速く感じたという声もあり、学習内容の定着に差が生じていることが懸念されます。子どもたちが、これまでの学習内容のつまずきを克服して新しい学年の学びが進められるよう、前学年までの学習内容の定着状況をていねいに確認し、できなかったところをできるようにする取組を進めましょう。

繰り返し学習等によるつまずきの克服と定着

◎学-Viva!!セット第19弾 (つまずき克服プリント)

- これまでの全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの分析結果から、特につまずきが見られる基本問題で構成したワークシート集です。(国語、算数・数学)
- 各教科10シート程度で、1シート5分から10分でできる内容です。
- 各学校が小6、中3の年度初めにおける朝の短時間学習や授業、家庭学習等で繰り返し活用できます。

◎学-Viva!!ドリル

- ・小5、中2の学年末までの基礎的・基本的な知識・技能を問う問題を集めたワークシート集です。(国語、算数・数学、理科)
- ・みえの学力向上県民運動HPの「先生のページ」からダウンロードできます。

◎学-Viva!!セット第18弾 (たしかめプリント)

- ・小4から中3までの児童生徒を対象とした、前年度2月から当該学年10月までの各単元の基本的な学習内容で構成したワークシート集です。(国語、算数・数学、理科)

前学年までの学習内容が 確実に定着しているか確認

◎令和3年度第1回みえスタディ・チェック (実施期間：始業式翌日～5月31日(月))

- 主に基礎的・基本的な知識・技能や三重の子どもたちの経年課題の問題を出題しています。

◎令和3年度全国学力・学習状況調査 (実施日：5月27日(木))

- 以下の内容を問う問題が出題されます。
 - ・身につけておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

学習内容の理解・定着状況を把握し、「できなかった」ところを「できる」ようにする取組や授業改善を進めましょう。

令和2年度第2回
みえスタディ・チェックで
改善が図られていない設問

<小学校国語>

- 新聞記事を書くのに必要な情報を得るため、【資料】のどの段落を中心に読めばよいか選択する。

令和2年度第2回 67.2%
(過去からの改善状況：+5.8ポイント)

<中学校国語>

- 筆者が心がけていることとその理由を、指定された語句を用いて50字以上、70字以内で記述する。

令和2年度第2回 40.7%
(過去からの改善状況：+8.1ポイント)

<小学校算数>

- 4は10の何倍かを求める。

令和2年度第2回 44.2% (新規)

<中学校数学>

- 等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、 a について解く。

令和2年度第2回 45.3%
(過去からの改善状況：+2.2ポイント)

「できなかった」ところを「できる」ようにするために
～ 学校における全国学調、みえスタディ・チェックを活用した取組モデル ～

調査の実施

5月27日(木)

本年度は、実施日が例年より1か月遅くなっています。

実施期間：始業式翌日～5月31日(月)

令和3年度
全国学力・学習状況調査

- ◆対象学年：小学校第6学年
中学校第3学年
- ◆調査内容：国語、算数・数学、質問紙

令和3年度
第1回みえスタディ・チェック

- ◆対象学年：小学校第4・5学年
中学校第1・2学年
- ◆実施教科：国語、算数・数学、理科
(理科は小4を除く)

全教員で
採点

自校採点の実施

- ・全国学調→「解説資料」を参考に採点し、解答類型を判断
- ・みえスタディ・チェック→「教師用採点資料」に従って採点し、解答類型を判断

集計結果の入力(みえスタディ・チェックは6月18日までに)

S-P表の活用

S-P表を活用し、重点的に指導すべきと考えられる問題を明らかにし、授業改善につなげましょう。

※見方のポイントは、「三重の学-Viva!!2021年3月号」参照

「授業改善サイクル支援ネット」に入力すると、自校の学習内容の定着状況をリアルタイムで把握できます。自校採点結果の設問別状況から、何年生で学習するどの内容でつまづいているのかを分析し、授業改善に活用してください。

対象学年の担任や対象教科担当だけでなく、課題を学校全体で共有し、各学年の指導に生かしましょう。

課題への対応と定着状況の把握

- ◆ 明らかになった子どもたちの課題に対応したワークシートなどを活用し、授業や朝の学習、家庭学習等の活用場面で、年間を通じて組織的、計画的に「できる」ようにする取組や早期からの授業改善を進めましょう。
- ◆ その取組により、子どもたちがどれだけ「できる」ようになったか、学習内容の定着を確認しましょう。

早期からの授業改善
つまづきの克服

令和3年度全国学力・学習状況調査の実施にむけて(実施日：5月27日(木))

子どもたちが力を精一杯発揮できるよう、右記のマニュアルで実施体制等を整備・確認し、円滑な実施をお願いします。

令和3年度

- ・全国学力・学習状況調査 調査マニュアル
- ・全国学力・学習状況調査 調査マニュアル【教室監督者用】

調査(実施)

- ★最後まであきらめずに、がんばって解答すること
- ★計算や下書き等は問題用紙に書き込んでもかまわないこと

子どもたちに
伝えてください!!

調査(実施)中の確認

- ★問題用紙に解答(回答)を記入している児童生徒がいた場合は、解答(回答)用紙に記入するよう指示してください。
- ★解答(回答)欄の場所を間違えずに記入しているかを確認し、適宜、指示してください。
- ★解答をあきらめているような児童生徒には、できるところから解答を試みるよう、適宜、指導してください。



マニュアルを
熟読しよう!!

【事例43】名張市立美旗小学校

本校では、学校教育目標「みんな仲良く はつらつとした たのしい学校」の実現に向け、取組の1つとして、教員の授業力の向上をめざし、校内研修のテーマを「思考力・表現力の育成と主体的な学びをめざして～対話から生まれる気づきのある授業づくり～」と設定して進めています。

今回は、校内研修を活性化させるための本校の工夫について紹介します。

校内研修を活性化させるための工夫

○ 研修の時間を内容別に30分間としています。（研修のモジュール化）

研究授業の事前検討を、以前は90分間と設定して行っていました。教材解釈に時間を費やしてしまい、指導方法や指導案の検討を十分に行うことができませんでした。そこで、検討する内容を①教材解釈、②指導方法の検討、③指導案作成の3つに分け、それぞれを30分間と設定することで、検討内容が焦点化され、集中して協議することができるようになりました。

○ 協議するメンバーを毎回変えています。

校内研修会では、グループ協議の時間を位置づけています。その際、グループ協議のメンバーを毎回変えています。例えば、教材解釈を検討する場面では、経験年数の異なるメンバーでグループを構成することにより、若手教員は、ベテラン教員のそれまでの経験に基づく深まりのある解釈を学ぶことができ、得た学びを授業改善につなげています。

また、グループ協議のメンバーを毎回変えることで、教材研究や指導方法について学年を越えた対話が増え、コミュニケーションが活発になってきました。

○ 思考ツール「キャンディーチャート」を活用しています。

研究授業の事後協議では、協議する内容を焦点化するために、思考ツール「キャンディーチャート」を活用しています。真ん中の枠に「協議テーマ」を書き込み、左には「教師の手立て」、右には「児童の様子」という枠を設けて、各教員が付箋に、「教師の手立てはどうであったか」、また「その手立てにより児童はどう反応したか（主体的な学びにつながったか、学びに深まりがあったか等）」について書いたものを、交流しながらキャンディーチャート上で整理し、研究授業の成果と課題をまとめます。

また、事後協議の後には、成果と課題をふまえて、明日からの自分の授業にどう活かしていくのかをまとめる時間を設けています。



↑キャンディーチャート

○ 校内研修を4人の研修リーダーで分担しています。

本校の校内研修の柱は、授業改善（授業づくり）、習熟度別指導、朝のモジュール学習、学習環境の4つです。それまで、1人の担当者が4つの柱すべてについて企画・運営していましたが、4人の研修リーダーで分担して行うことで、効率的な研修の推進につながりました。

○ 自主研修の時間を設けています。

令和3年度から1人1台学習端末を活用した授業が行われることから、ICT活用等の個人スキルを伸ばすため、放課後に自主研修の時間を設定しました。

○ 研修の効果を確認し、改善につなげています。

研修の効果については、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック、スタディ・チャレンジ（名張市独自の取組）、Q-U等の結果を活用して、子どもの学習内容の定着状況や学習意欲等を把握し、研修の内容の改善につなげています。

●●●●●名張市立美旗小学校長からのコメント●●●●●

私たちがめざすのは、子どもたちの「できた!」「わかった!」です。そのためには教職員の授業力の向上を図ることが必要です。学校における働き方改革が言われる中、研修会の持ち方も、効率よく、なおかつ主体的に取り組めるものにと工夫が求められます。

子どもたちの「できた!」「わかった!」につながる、教職員の「できた!」「わかった!」を研修の中で見つけ、実践を積み重ねていきたいと思っています。

GIGA スクール構想：「1人1台端末」の活用に向けての研修支援

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、子どもたちの学びを止めない手段の一つとしてGIGAスクール構想が加速し、県内の公立学校では無線LAN環境が整備され、さらに小中学校等においては児童生徒用の1人1台端末の整備が進みました。今後は、整備された環境や機器を効果的に活用し、子どもたちの学びを広げ、深める授業実践が求められています。そのために、各地域で研修会が開催され、様々な取組が進められています。その一つとして、明和町の取組を紹介します。

明和町では、「1人1台端末」の活用促進に向けた研修会が開催されました。全3回のうち2回はWeb会議システム「Zoom」による遠隔研修、1回は感染症対策を施したうえでの集合型研修が実施されました。また、明和町内小学校では、依頼に応じて同様の研修が遠隔で実施されました。

★明和町教育委員会研修講座「協働学習支援ツールの基本的な活用法」★

南勢教育支援事務所指導主事が講師となり、GIGAスクール構想の概要説明をしました。その後、受講者は、協働学習支援ツールで、自己紹介カードの作成等に取り組みながら、資料の一斉配信や画面共有、プレゼン機能の活用、提出箱やコメント機能を使ったやりとり等を学びました。

希望者対象の研修でしたが、多数の先生方に参加をいただきました。研修の中で、それぞれの学校における課題や、1人1台端末活用についての不安や悩み等を知るとともに、さらなる研修の充実と現場の実態に応じた支援の必要性を再確認しました。

先生方の声



- ・タブレットを活用した授業は、こういった場面での活用が最適なのか、考えていかなければならないと感じました。
- ・タブレット端末に触れることが目的ではなくて、学習に使うツールであることも指導しなければいけないと感じました。
- ・タブレット端末を活用することで、視覚的補助として、特別な支援が必要な児童にも有効活用できると感じました。
- ・子どもたちと早くタブレット端末を使って授業がしたいと思いました。すべての子どもが参加できる授業になりそうな気がします。
- ・自分でやってみるとやらずにいるのでは、ICT活用の捉え方が違うと感じました。かなり不安がありましたが、楽しみになってきました。
- ・これから授業で活用するのが楽しみな気持ちと、機械に苦手意識があるので、授業中にトラブルが起きた時、心配な気持ちとがあります。



令和2年度、県教育委員会では、オンライン授業や1人1台端末の活用を進めるため、ICT活用にかかる教職員研修を遠隔で15回開催し※、約1,900人の教職員が受講しました。受講後のアンケートからは、「子どもたちがタブレットを持った状態での授業のイメージが持てた」「整備された機器を授業にうまく取り入れられるか不安」などの、さまざまな声が寄せられました。ICTを効果的に活用した授業改善に向けて、受講者の熱意が伝わってきました。

※これまでに実施した講座はネットDE研修で視聴できます。(一部を除く)

令和3年度、県教育委員会では、1人1台端末を効果的に活用した教育活動の推進を目的とし、市町等教育委員会と連携して、「1人1台端末活用推進者育成研修」を全4回で実施します。内容は、従来の知識定着型学習から学習者の「主体的・対話的で深い学び」への転換について、公開授業を通じて学ぶ研修です。詳細は、各学校に送付する要項を参照してください。



令和3年度1人1台端末活用推進者育成研修

回数	日程	内容
1	5月11日	講義
2	8月3日	実践発表
3	2学期	公開授業(地域別)
4	1月18日	実践報告会